

良家の子よ。王都カピラヴァストウにゴーパー（瞿波・瞿夷）という貴公女がいます。行つて尋ねなさい。菩薩はいかにして生死の苦の世界の衆生を救うのかと。

\*

スダナ・クマーラ 善財童子は森の女神に礼拝し、そのもとを辞した。



菩薩は如来の家系につながつて、常に衆生済度の大願を維持する。

## 40 シヤカ族の貴公女ゴーパー

### 女神たちの出迎え

シヤカ国の王都カピラヴァストウには、しょうごんどうじょう 莊嚴講堂とよばれる説法の堂宇（法堂）があつた。大商主の子スダナがルンビニー園を出て王都カピラヴァストウに近づくと、家屋を守護する女神アシヨーカーシユリー（無憂徳・離憂妙徳天）が一万の眷属の神々とともにスダナを迎え、スダナを讃えて告げた。

\*

だいえ 大慧の人よ。よく来られました。

あなたは菩薩の不可思議の法門を修し、菩薩道を行じて正法の城に向かわれています。久しからずして無上莊嚴なる如来の身口意（身体と言葉と意識）の三業を逮得され、寂滅（さとり）の法を修習して、甚深の如来の法に達せられるでしょう。

\*

この神々の称讃に対してスダナは告げた。

私が願うのは、自分の成道ではありません。世の人びとの煩惱を滅し、さまざまな不善の行いを取り除いて一切衆生に歡びを与え、善をよく修すことを勧めて、皆が安らぐようにすることです。世間を見れば、人びとは多く悪業（悪しき行い）をなし、煩惱に捕縛されて地獄・餓鬼などの悪道に堕ち、無量の苦を受けています。

人びとが物事に執着する心の強さは、たとえば子が一人しかいない人が、その子を探らえられ、子の手足が切断されるのを見たときの激しい憎悪・悲嘆のようです。

そして、菩薩が苦しむ人びとを見たときの悲痛も、同じくらい強いのです。ぎゃくに、もし人びとが身口意の善業につとめ、功德を積んで天界の榮を得るなら、そのことを菩薩は自身の無上の歡びとします。

この衆生済度の大願のゆえに、菩薩は行を修し、諸仏を供養して薩婆若（一切智）を求めて疲倦なくあります。

菩薩は衆生の功德の蔵となり、父母となり、守護神となり、輪廻の苦海の渡し場となり、輪廻の渡船の舵手となり、諸魔を退散させる岩となり、清浄の地に導く導師となり、人びとの上に甘露の法雨を降らします。一切衆生を愛念して正法を求めるゆえに。

\*  
スダナがこのように告げると、女神アショーカシユリーは百万の眷属の神々とともに香や花々を

ささげて、偈をもってスダナを頌した。

無量無数劫に世の灯火は出でて普く衆生のために仏の菩提を求む。

諸の菩薩行を行じて世間を離れず、世間に著せず、

世を行くに障礙なきこと風の虚空に遊ぶが如し。

シャカ族の貴公女ゴーパー

スダナは迎える女神たちと王都の法堂に入っていくた。

シャカ族の貴公女ゴーパーは法堂の中央にいて、八万四千人の采女に取り囲まれていた。みな王家・貴族の娘であり、過去世に諸の菩薩行を行じて功德を積み、布施・愛語をもって衆生を摂取・救済してきた清らかな公女たちであった。

スダナは貴公女ゴーパーに礼拝して告げた。

\*

聖なる公女に教えを乞いにまいりました。

私はかの無上菩提を求めて菩薩の道を進んできました。しかし、私にはわかりません。

威大な菩薩たちは、穢れた生死の世界に身を置きながら、なぜ自身は汚染されずにいられるので

しようか。

すでに諸法の実相（万物の真実）を知り、出家専修の声聞・縁覚（小乗の聖者）の境地を超えて如来地（仏のさどりの境界）にあるのに、なぜ、仏とならずに菩薩（求法者）の位にとどまっているのでしょうか。

すでに輪廻の世界からの解脱を得ているのに、なぜ、輪廻の諸道に姿を現すのでしょうか。

諸仏の教えは不可思議であり、説くことはできないとされながら、なぜ、いろいろな言葉を尽くして説かれるのでしょうか。

一切諸法は空であり、全ては不生不滅、仏でさえ生起することも消滅することもないと了知しながら、なぜ、諸仏を供養するのでしょうか。

一切は空であり、業報（因縁果報）もないと知りながら、なぜ、業報の恐るべきことを説きつづけられるのでしょうか。

\*

これらの問いを受けて貴公女ゴーパーは語った。

\*

良家の子よ。問うべきことを問う尊さを、私は祝福します。それはまさに普賢（普く勝れた者）の諸の行願を修する者の問いです。

その問いに、私は諸仏の威神力を受けて答えます。

良家の子よ。菩薩の道を行く者は因陀羅網（天帝インドラの須弥山上の宮殿をつつむ宝網）を得て普く知の光明を放つのです。天帝インドラの宝網は、その結び目の一つ一つの宝玉に世界を映し、互いに照らしあっています。

それを得るには十種の法によらなければなりません。

一には善知識を抛り所として、弘誓の願をおこすことです。

二には深く信じる心をおこすことです。

三には諸の善を行って心を浄めることです。

四には福德と智によって心を明るく維持することです。

五には諸仏の法を聞いて受持することです。

六には三世の諸仏を深く信じて暮らすことです。

七には菩薩の行の平等を知ることです。

八には諸仏の威神力をあおぐことです。

九には大悲の心から生じる道心によることです。

十には生死輪廻の動きを止める意志の力を獲得することです。

良家の子よ。

もし勝れた善知識に出会うことができれば、勇猛精進して心に退転なく、諸仏の法を学び、修することができましょう。そして、もし、身命を惜しまず、世間の樂を求めず、諸法の実相を知つ

て、しかも智と願を捨てずにいるなら、勝れた善知識に出会うことができるでしょう。

\*

貴公女ゴーパーは、さらに偈をもつてスダナに励ましを与えた。

其の心に仏の想の如く善知識を恭敬し、勇猛精進の力を以て因陀羅網を具す。

直心は虚空の如く煩惱の垢を遠離し、不可思議の智慧は功德海を積習し、

清浄の福業の蔵は世間に染まず、普く一切趣に於て諸の群生を度脱す。

### 菩薩の三昧海の観察

この貴公女ゴーパーは海洋のように広大な菩薩の三昧海を観察する法門（観一切菩薩三昧境界海解脱門）を成就したということであった。その境地を尋ねたスダナに貴公女は語った。

\*

良家の子よ。私はこの三昧（心の集中）において、この娑婆世界の衆生が無量刹塵の劫に、ここに死に、かしこに生まれ、善悪の業をなして、善悪もろもろの果を受けるのを見ます。

生死の諸道には、心を正しく維持していずれば解脱していく正定の者もあれば、邪定および不定の人びともいます。多く功德を積んでいる人もあれば、貧窮の者もいます。そして私は、このよ

うな世界の無量の劫において世に出られた全ての諸仏を知り、その名号の海に入ります。

諸仏は初めに道心をおこし、誓願を立てて菩薩行を行じ、他の一切の諸仏を供養して正覚（さとり）を成じ、法輪を転じ、自在神力を現して衆生を化度してから、それぞれに入滅します。

諸仏にしたがう声聞・縁覚、そして菩薩衆も初めに道心をおこし、善根を修し、大願海を生じて諸波羅蜜を成就し、菩薩の諸地（菩薩道のいろいろな段階）、菩薩の智、菩薩の善巧方便をもって衆生を教化します。

私は一念一念のうちに菩薩の三昧海を見、菩薩が一切種智を得て大願海を成就し、自在神力を顯すのを見ることが出来ます。

この娑婆世界の諸菩薩と同じく、私は一念一念に十方世界の諸菩薩を見て、その世界海・世界輪・世界円満・世界分別・世界旋回・世界転・世界華・世界相等を了知します。

なぜなら、この法門は毘盧遮那仏の本願力を受けて、一切衆生の心海を知り、その善根を知り、垢の有無と浄・不浄を知り、一切衆生の性を知るものだからです。

\*

### 太子と町娘の恋

そこでスダナは、この觀察法門を得てからどれほどの劫をへたのかと貴公女の過去世を尋ねた。その問いに貴公女ゴーパーは、このように語った。

＊

はるか微塵数劫のあなたに、アバヤンカラー（無畏）という世界がありました。そのなかにクシエーマーヴァティ（安穩）という四大州（須弥山を中心とする一世界）があり、そのジャンプ州（閻浮提）にドウルマメル・シユリー（妙徳樹須弥山）という王都がありました。

その国の大王をダナパティ（財主）といいます。王城は広大で、五百人の大臣が仕え、後宮には八万四千人の妃や采女があり、五百人の王子がいました。

その多くの王子のなかの太子の名はテージョーディパティ（威徳主）といいます。太子の容姿は端正で、すでに如来の三十二の瑞相をそなえていました。

あるとき太子は父王の許しを得て、城外の香芽雲峰という美しい園地に出かけたことがありました。太子は黄金の馬車に乗り、一万の采女が供をして傘蓋をさしかけ、宝石のきらめく帳をはり、香華を散じながら園地に行幸したのでした。

ところで、そのとき王都にスダルシャナー（善現）という太夫（高位の遊女）がいました。彼女にはスチャリタラタティ・プラバーサシユリー（具足妙徳・離垢妙徳）という美しい娘がおり、その娘を連れて園地に出かけていました。

この娘が太子を見て恋をし、太子の後宮に入りたいと母の太夫に願いました。「もしお許しくださらぬなら、わたくしは死を望みます」と。

しかし、身分の違いを恐れた母は娘を諭しました。

「もし太子の妃になれば、悲しみが目に見えています。太子が王になったとき、後宮には高貴な家の娘を迎えられ、あなたは召使いの女にもなれないでしょう。けっして、太子の妃になろうなどと望んではなりません」

ときに、この王都の郊外に菩提の道場があり、スーリヤガートラ・プラヴァラ（勝日光身）という如来が出現していました。そして、園地に来る前に娘は夢に仏の姿を見たことがあったのです。その夢から目覚めた娘に空中に神が現れて告げました。

「あなたが夢に見たのは、勝日光身如来です。成道されて七日がたち、道場で転法輪の集會を開かれています。天の神々も水界の龍たちも、地神・風神・火神・山神・樹神など、一切の神々と精霊たちが、そこに参じて、法を聞いています」

この如来の夢を思つて勇氣を得た娘は太子に、偉大な王となつて天下を治められるように偈を誦して申しました。

我れ太子の身を見たてまつるに相好おのずから莊嚴したまう。

離垢の清淨、相を具すること三十二、此の故に必ず世の転輪聖王とならん。

こうして身を引こうとした娘に太子は告げました。

「あなたはどこの娘でしょうか。両親はだれでしょうか。もし、すでに他家に嫁いでいるのなら、

私は愛する心を捨てなければなりません」

その母が語るには、この娘は蓮の花の中に生まれた化生のもの、どこにも嫁いだことはないということでした。心身ともに清らかで、もし太子の妃となるなら、それにふさわしい娘でした。

しかし太子には決意していることがあったので、このように告げました。

「私はすでに無上菩提を求める心をおこし、菩薩行を修したい。国も王宮も妻子も捨てて、世の人びとのために修行したい。もし家を出るとき、美しき娘よ、あなたが障碍にならないだろうか」娘は、太子の出家をさまたげることはないと言え、偈を誦して告げました。

賢たど地獄の火に身を焼くとも、我れは太子に随順し、敢あえて其の苦を受けん。

一切の生死しうじ海に我れを施したまうとも悔ゆること無し。

太子、若し法王ならば、願わくば我れも亦然またしからしめたまえ。

太子衆苦を見て菩提の心を発おこし、無量の大慈悲をもつて衆生および我れを摂したまえ。

我れ豪富を求めず、五欲の樂を貪むさらず、ただ願わくば共に法を行じて太子の妻とならん。

それから娘は、夢に如来を見たことを話しました。それを聞いて太子は歡喜し、園地を發つて、勝日光身如来の菩提道場に詣りました。その娘と五百人の采女たちも太子と共にきました。

太子は如来に礼拝して香華をささげて供養し、香木で五百の堂塔を建立して如来に布施しました。そのとき勝日光身如来は太子のために普門灯明の修多羅ふもんとうめいしゆたらか（經）を説き、それを聞いた太子は一切法における三昧の海を得ました。いわゆる諸仏願海三昧、普照三世光藏三昧、対見一切諸仏三昧、普照一切衆生三昧、救護衆生光雲三昧、聞持諸仏法輪三昧などを得たのです。

そのとき、かの娘も不可壊寂靜の法門を得、無上菩提に至る道において不退転を得たのです。

### 釈迦如来の前世

こうして如来の菩提道場に詣れた太子は、王城に戻って父王ダナパティ（財主）に、そのことを報告しました。大王は如来の出現を聞いて、「仏は無上の宝にして難値難遇なんぢなんぐうなり。能く衆生の惡道貧苦を滅したまう」と歡喜し、天下に布告して、各地の城主・藩王・群臣・国民および婆羅門ばらもん（司祭）らを召集し、「我れ太子の吉報を聞けり。勝日光身如来、世に興せり」と言い、「我れは今、王位を太子に譲る」と宣じました。

大王は退位し、一万の眷族とともに勝日光身如来の道場に詣りました。そして、この仏のもとで一万の眷族とともに出家し、修行の道に入りました。

そして王位を継いだ威徳主太子は、やがて法をもつて天下を治める転輪聖王となりました。聖王は閻浮提の八万四千の都城の一つ一つに五百の精舍しやうしや（僧院）を建立し、それぞれに高く仏塔ぶつとうを築い

て諸仏を讃えたのでした。

さて、良家の子よ。

このときの太子で転輪聖王になった威徳主が、今の釈迦如来です。

そのとき父王は今の宝華光如来で、東方にまします。

そのとき父王の妃で太子の母パドマシュリー・ガルバサンバヴァー（蓮華吉祥蔵）が釈迦如来の生母マーヤー妃です。

そして、太子の妃になった娘が私で、釈迦如来がシヤカ国の王子シッダールタであったときの妃ヤシヨードラーでもあるのです。

\*

シヤカ族の貴公女ゴーパーは、このように釈迦如来と自身の過去世を語ったあと、そのときから久遠の時のなかで次々に出現し、ゴーパーが仕えてきた諸仏の名号を告げた。それは明浄身如来・淨月普照智如来・智観幢如来・広智光明王如来・法界蓮華如来などである。

そして貴公女ゴーパーはスダナに告げた。

\*

良家の子よ。しかし私は、この菩薩の三昧海を観察する法門を得ているにすぎません。真に威大な菩薩たちは悉く方便海を究竟し、一切の衆生と同じ姿を現して世間に随順しています。それは、諸法は無性にして、衆生にさまざまな違いはあっても、等しく虚空のごとく、法界はいたるところ、

如（そのまま）は如であると了知しているからです。真に威大な菩薩たちは神変を顕現して、諸の法界において自在力を得、普門の一切諸地の法門海中に遊戯しています。良家の子よ。この王都カピラヴァストウの莊嚴講堂にマーヤー妃がいます。

行って尋ねなさい。菩薩はいかに諸行を修し、世法に染まらず、衆生を摂取して未来の劫が尽きるまで退転せず、大乘の諸願を満たして一切衆生の善根を長養するのかと。

\*

スダナ・クマラー善財童子は貴公女ゴーパーに礼拝し、そのもとを辞した。



たとえ仏道が成就されても  
菩薩は常に世の人びとのなかにいる。